

# なばり

2011年(平成23年) 2月20日発行

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1  
☎0595-63-7402 ㊟64-2560 ✉info@city.nabari.mie.jp  
http://www.city.nabari.lg.jp  
携帯版 http://www.city.nabari.lg.jp/m\_index.htm  
バーコード読み取り対応の携帯電話端末から携帯版へ

主な内容 P2…名張市排水設備指定工事店一覧 P3…軽自動車やバイクの廃車・名義変更の手続き、年金通信 P4…まちの話題

## 地域医療を守るために、一人ひとりができることは

「地域医療を守るために、できることを考えたい」。昨年12月、名張・伊賀の両市民や団体が「伊賀の地域医療を守る会」を設立。市民の立場から、地域医療を守るようとする活動が活発化してきている。

そんな中、地域医療を守るようと市民が立ち上がった先例として全国的に注目されている「兵庫県立柏原病院の小児科を守る会(兵庫県丹波市)の丹生裕子さんが、2月9日、美旗市民センターで講演し、「医療に理解ある地域を築いていくことが大切」と訴えました。「医療に理解ある地域を守るために一人ひとりができることは何かを考えます。中、地域医療を守るために一人ひとりができることは何かを考えます。」

## 医療に理解ある地域へ

「兵庫県立柏原病院の小児科を守る会」代表  
丹生裕子さん(兵庫県丹波市)



兵庫県立柏原病院



「お」 医者さんを守ることが子どもを守ることに繋がると、母親たちが立ち上げた「兵庫県立柏原病院の小児科を守る会」。病院の小児科が閉鎖寸前となった際、子どもの病気にあわせて、休日や夜間の軽症での受診を慎重に啓発活動などを展開しました。その結果、小児救急患者が半減し、理念に賛同した小児科医3人が新たに勤務することになったのです。彼女たちの活動は全国的にも注目され、波及しています。

守る会代表の丹生裕子さんは、2月9日、美旗市民センターで開催された美旗市民大学講座で次のように訴えました。

「コンビニ受診の実態や当直明け36時間の連続勤務」など、医師の過酷な勤務を知る機会があり、「この状況で、もっと頑張るとは言えない」と実感しました。そこで、5万人もの署名を集め、医師派遣を県



「地域医療を守る」と呼びかける商店街の垂れ幕(兵庫県丹波市)。4年前に始まった守る会の活動は地域に広がっています。

に要請しましたが、「医師不足はどのも同じ」という回答。行政の対応を待っている間に、医師が地域を離れていってしまうと感じました。そんな中、わたしたち自身が行動し、医師が働きやすい地域、すなわち医療に理解ある地域を築いていこうと決意しました。

「コンビニ受診」を控えようと言っても、どんな場合に受診が必要なのかを知らない不安ですね。だから、子育て世代を対象にした医療座談会や、医師を講師に迎えた意見交換会を開催したりしています。

また、「病気が治って当たり前」ではなく、医師に感謝の気持ちをきちんと伝えたいものです。病院には「ありがとうポスト」を設置し、感謝のメッセージを貼り出しています。そのほか、病院の草刈り作業に参加したりもしています。病院長や市民が、お互いに顔の見える関係でありたいと思います。

子どもが病気になる際の行動が分かる冊子や、適切な受診を訴える絵本、市内外に医療を守る地域であることをPRする車のステッカーなどを、守る会が多方面の協力を得ながら手がけました。



これまで4年間、活動を進めてきて気付いたことは、医師と住民は、地域の医療を創り上げていくパートナーのようなものだという点。医療に理解ある地域づくりを進めていくためには、医療関係者・行政・市民が「地域医療を守る」という一つの目標に向け、それぞれができることをできる範囲で行動に移していくことが大切だと思うのです。

「医療関係者の尽力、行政の輪が加われば、地域医療を守る大きな力になるはず。丹波市では、当直医師に夜食の差し入れを届けるボランティアが誕生したり、薬剤師が薬に関する夜間電話相談を始めたりと、医療関係者や、行政、多くの市民がかかわりながら、地域医療を守る活動の「輪」が広がっています。

子どもが病気になる際の行動が分かる冊子や、適切な受診を訴える絵本、市内外に医療を守る地域であることをPRする車のステッカーなどを、守る会が多方面の協力を得ながら手がけました。

### 伊賀地域でも医療を守る取組みが広がっています

#### 市民の立場でできることを考えたい



「伊賀の地域医療を守る会」代表 高木裕美子さん(梅が丘北)

市民の立場で、伊賀の地域医療を守るために、今できることを考えようと、昨年12月、「伊賀の地域医療を守る会」を立ち上げました。現在、53人と9団体が所属しています。医師が来なくなる地域を目指して、また、医師が伊賀地域を離れていってしまうよう、わたしたちがすぐにはできないことは、診察後に「ありがとう」と伝えること。人と人の関係は、感謝され、感謝して成り立っているのだと思います。会としては、他地域の事例を勉強したり、シンポジウムを開催したりして、コンビニ受診の防止や地域医療の現状を訴え、病院と住民が理解しあえる土壌を築き上げていきたいと考えています。ただ、すぐに解決できる問題ではありません。また、医師が定着する地域であり続ける必要があります。それだけに、地域医療を守る活動を地道に継続し、伊賀地域に根付かせていきたいですね。

市内では、子どもの急病時の対処法を学びながら、小児救急を守ってこうと活動している看護師ママと一般ママたちの市民グループもあります。

詳しくは、小児救急啓発ボランティア「ママナースの一步」ホームページ (<http://www.geocities.jp/mamanurse19/>) で。

ママナースの一步 検索

■あなたの声で地域医療を守る力に！ 医師や看護師などへの「ありがとう」のメッセージを募集中です【募集期間が2月28日同まで延長されました】  
◎詳しくは、三重県ホームページ (<http://www.pref.mie.jp/RYOS/HP/ohainet/>) か、三重県医療政策室 (☎059-224-2226) へ